

大曲南中生 あす、教養大で販売 **地元野菜で菓子開発**



大仙市藤木の大曲南中学校の3年生が地元菓子店と協力し、きんつば、カップケーキ、団子の3品を開発した。地域の野菜を使用していることが特徴で持続可能な開発目標（SDGs）に関する学習の一環。あす8日に秋田市の国際教養大（AIU）で開かれる「AIUマルシェ」で、生徒が店頭に立って販売する。

生徒たちは今年7月ごろからオリジナルのお菓子の開発を進めてきた。教養大に出向き、留学生に和菓子の認知度を尋ねたほか、どんな商品なら買いたいと思うかをリサーチ。日本人学生の助けを借りながら、英語で聞き取りしたという。教養大などでの調査結果を踏まえ、メニューや価格を決定した。

菓子にはそれぞれ、地元産のクリやエダマメなどを使っている。学校近くの菓子店「新栄堂小田島」と「おおくぼ菓子店」が製造に協力。子どもから大人までおいしく食べられるような味わいに仕上げたという。

AIUマルシェで使用する店の看板やポップのデザインも生徒たちが考案。当日に向け、会計や品出しの練習も重ねてきた。団子を販売するグループのリーダー高橋蓮さんは「地元の良さを詰め込んだ、ここでしか食べられない商品。頑張って作ったので、ぜひ買い求めてほしい」と話している。

マルシェは午前10時～午後3時。大学の学生会館で実施する。きんつばは5種類計200個を各200円で販売。団子(2本入り)は6種類計200パックを各300円、カップケーキは6種類計212個、各250円で売り出す。(針金友理子) (令和6年12月7日(土)秋田魁新聞より一部抜粋)